



NPO Japan Intercultural
Intelligence (JII)

ANNUAL REPORT 2024



特定非営利活動法人
アジア人文文化交流促進協会

2024/4/1～2025/3/31



「リアルな関わり」から
真の共生社会実現へ

ミッション

外国人住民が日本社会に なじみやすくする

ビジョン

外国人を含めた多様性を活かす「文化共生」の実現

川の考える「文化共生」とは：人びとがそれぞれの文化の良さを保ちながら、様々な文化の持つ素晴らしさを楽しめること、互いにとって暮らしやすい「良き隣人」として生きること、素晴らしい文化同士の出会いによって、新たな公共文化や価値を創造することです。

ごあいさつ

自国ファースト。

残念ながら自己中心主義は、人間の悲しい本性です。国家がこれを暴走させると、戦争・紛争・内乱・圧政など悲劇に発展します。

幸いにもこの80年間、平和ボケと揶揄されるほど私たちは暴走と無縁の日々を享受してきました。

日本に住む外国人がこの20年でほぼ倍増したのも、そのお陰です。

私が生まれたのは第二次大戦直後。外国人と言えば旧植民地からの被差別者か、進駐してきた米軍人ばかり。川のビジョンー多様性を活かす『文化共生』の実現ーなんて、夢のまた夢でした。

時代は変わりました。正しい情報を交換し合うことで、国や文化を超えてご近所でも職場でも楽しく付き合える関係を広げていく。そんな川の願いは想定をはるかに上回る賛同者を得て、事業も急速に拡大・発展・進化しています。

心配なのは、世界中で暴走する国家主義。ウクライナ、パレスチナ、カシミール…。日本も平和ボケから目覚める時が来ているようです。けれど慎重に目を覚まさないで、大間違いが起こります。例えば、イスラエル。紀元前から守り貫いてきた次の戒め。この神の言葉をちゃんと守っていれば、ガザの悲劇は避けられたはずで。

「寄留者（外国人）を虐待したり、圧迫してはならない。あなたがたも（克ては）寄留者だったのだから」（出エジプト記22：20）

ぼけるほどに平和だった日本と日本人。その伝統を、川は地道に守り続けたいと考えます。

「小さな楽しい関係の積み重ねから、世界全体の寛容化へ」。

そのためには「日本で生きてきた」ことがボランティア最大の素養、「日本人と共に生活したい」ことがメンバーになる唯一の条件です。

ぜひあなたも、活動を支援してください。

理事長 石川 憲彦

役員紹介

理事長

石川 憲彦

Ishikawa Norihiko



児童精神科医 人生の大半は、大学（東京、マルタ、静岡）で障害児・者の医療と社会臨床の実践・研究に従事。退官後開業した林試の森クリニック引退後、フリーの精神科医として子どもやマイノリティーの社会参加をサポート。

一人の人間としては、「誰もが例外なくマイノリティー」。そんな一人一人と互いに尊重し合っていると感じるのが、一番充実した時間。

理事

中村 安秀

Nakamura Yasuhide



公益社団法人日本WHO協会理事長・大阪大学名誉教授。インドネシアやパキスタンなど国際保健の現場で活躍し、母子健康手帳を世界に広めた。国内では、医療通訳士の普及など外国人医療の質の向上に努める。どこの国にいても子どもがいちばん好き。

理事

田畑 智砂

Tabata Chisa



弁護士 東京弁護士会所属。マザーバード法律事務所代表。弁護士法人パートナーズ法律事務所（東京）、Siam City Law Offices（バンコク）勤務を経て、同事務所を設立。

東京都内の児童相談所及び子ども家庭支援センターの非常勤弁護士。三児の母。

理事・事務局長

楊 淼

Yang Miao



ファウンダー・文化交流コーディネーター 心理学専攻。日中間政治、経済、文化に関わる国際専門会議にて事務局兼通訳。2010年にNPO法人アジア人文文化交流促進協会を設立。大手企業向け人材育成、人事・組織コンサルティング会社、海外現地法人実務責任者を経て、日本に暮らす外国人住民のサポートに専念する。二児の母。

監事

植松 真理子

Uematsu Mariko

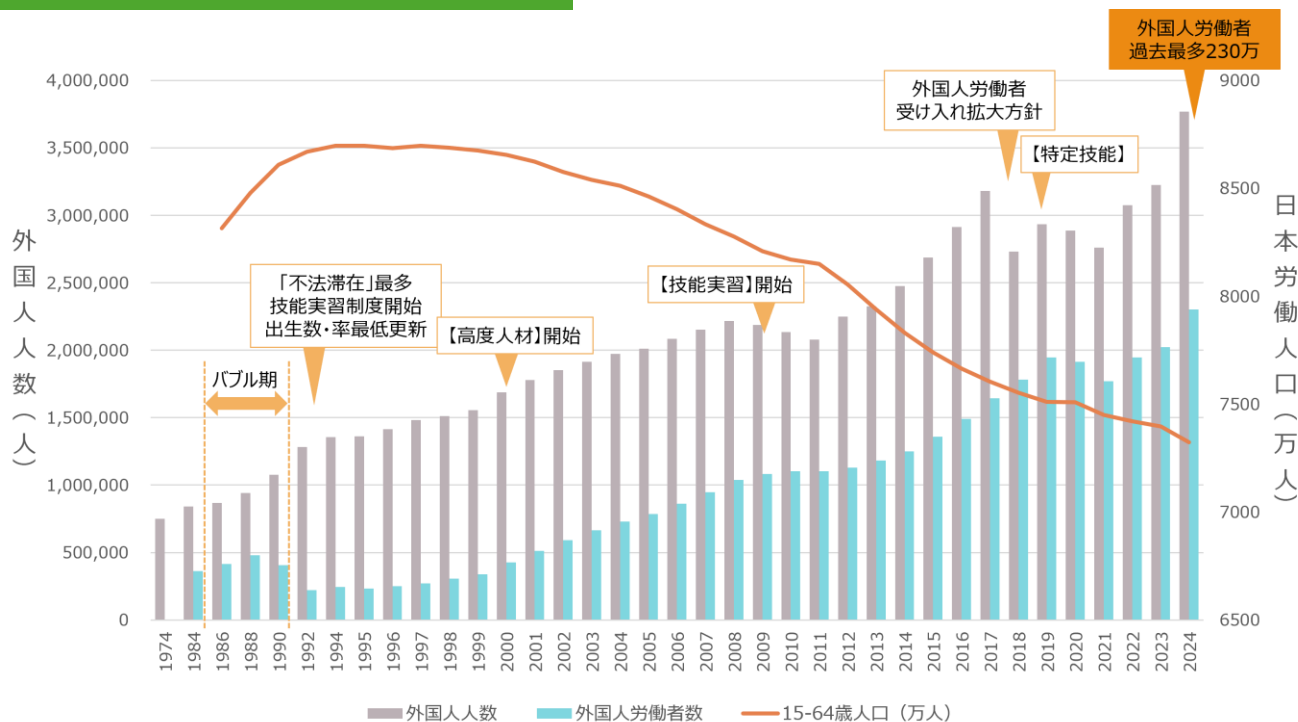


目次

- 3 外国人住民とともに築く、これからの社会
- 4 私たちのアプローチ・事業概要
- 5 2024年度活動ハイライト
- 7 活動レポート
 - ①OFP事業 ②情報提供・相談窓口事業 ③難民・避難民生活支援事業 ④地域多文化共生協働事業
- 13 協働・協力
- 14 財務報告 2024年度活動計算書・貸借対照表
- 15 川チームからのメッセージ
- 17 川の歩み・2025年度の川
- 18 ご支援のお願い

外国人住民とともに築く、これからの社会

なぜ外国人との共生に取り組むのか



2024年は、ウクライナ侵攻の長期化に加えて中東の人道危機、米大統領交代による世界の秩序の揺らぎなど、国際情勢が大きく動いた一年でした。気候変動の影響やAI技術の進化といった地球規模の課題も、私たちの日常と無関係ではいられないものになってきています。いま、私たちは大きな転換期にいるのだと感じます。

日本では人口減少がますます深刻になっていますが、それでもある程度経済の安定が保たれているのは、外国から来た人材がその支えの一つとなっていることは確かではないでしょうか。

そうした中で、日本社会と外国人との関わり方も大きく変わり始めています。外国人政策は、単なる労働力確保という視点を超えて、より広い視野から議論されるようになってきました。制度や手続きに対する批判的な声もある一方で、差別のない労働環境や人権尊重の仕組み、より良い在留制度を求める声も高まっています。また、日本がどのように外国人を受け入れていくべきかという、社会の未来を左右する問いも投げかけられています。

これらの議論は、外国人住民の方々が日本にとって大切な存在になっていること、そしてその背景には、複雑さを増す環境や課題があることを物語っています。残念ながら、一部では心ない言葉や行動によって、外国人と日本人との間に距離が生まれてしまうこともあります。

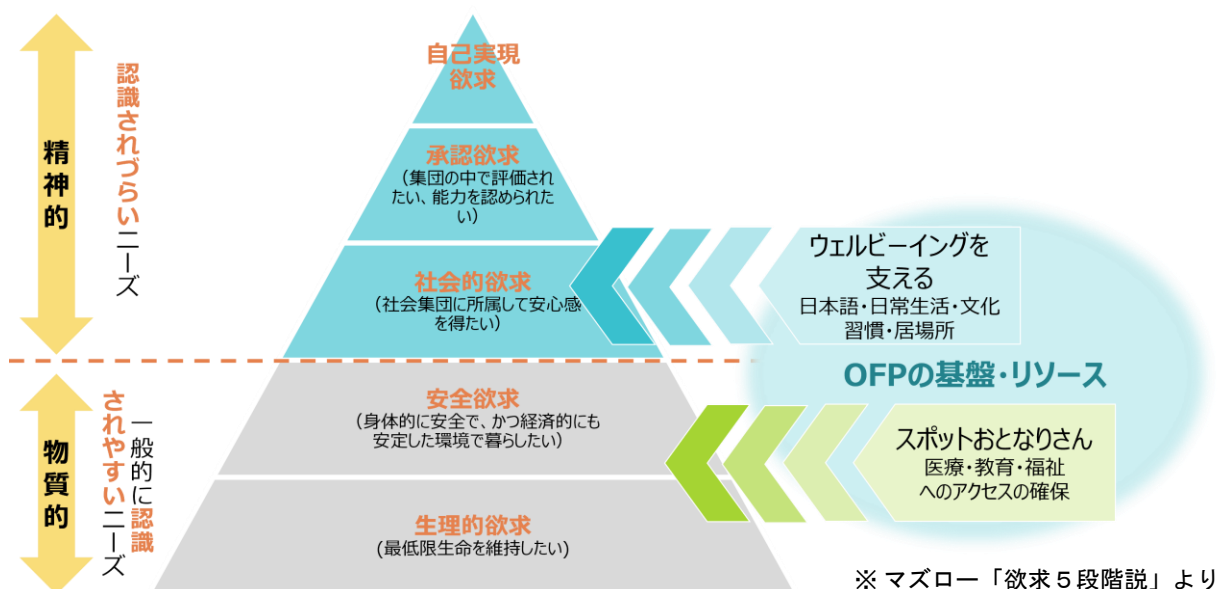
いまや日本のさまざまな分野で欠かせない存在となっている外国人住民が、この社会の一員として安心して暮らしていけるようにするためには、受け入れる私たちと、日本で暮らす彼らの双方が歩み寄る姿勢が必要です。

川は、一人ひとりのリアルな出会いや経験を通じて互いの理解を深め、外国人住民が日本に馴染み、安心して暮らせるよう活動を続けています。それは、お互いの文化の良さを認め合い「良き隣人」として共に生きていくための、かけがえのない一歩です。

どんな日本を、未来に残したいのか。私たち一人ひとりがこの問いに向き合い、考え、行動していくことが、今必要なのではないのでしょうか。

私たちのアプローチ

短期的、物資的支援を超え、外国人住民が「隣人」となれるよう、
ウェルビーイングと地域コミュニティへの参画を促進します



外国人住民への深い理解

本質的な支援で日本社会での自立をサポート

リアルな関わり

交流を通して新しい文化と価値を生み出す

市民主体

外国人住民と日常的に関わり、
共生の実体験や経験を積む

継続的な信頼関係

互いの理解を深め長期的な信頼関係を築く

事業概要

外国人住民

日本での生活に
不慣れな人
(子育て家庭/社会人/
学生など)

特定の課題を
抱えている人

日本で
暮らしたい
難民・避難民

日本社会に
馴染みたい
すべての人

OFP事業

長期サポート「おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム」
単発サポート「スポットおとなりさん」

情報提供・相談窓口事業

くらしの相談、日本語学習支援、
外国人妊産婦支援

難民・避難民生活支援事業

継続的な日常生活支援

地域多文化共生協働事業

外部団体との協働イベント開催

地域住民 (市民ボランティア)

2024年度 活動ハイライト



有給職員 8名
運営ボランティア 63名
プロボノ 12名

事業収益
1,027 万円
(前年比107%)

うち、受取寄付金
210 万円

資源



社会認知

講演回数 **5** 回
講演聴講者 **450** 名
連携団体 **20** 団体



◀24年7月：
赤い羽根中央共同募金の調査研究報告会・シンポジウムにて、先進的な取り組みとしてOFPを紹介



◀24年12月：
JP-MIRAI会員向けフォーラム・シンポジウム「急速に変化する外国人労働者の受け入れ環境への対応」でOFPの活動報告



▲24年10月：
パルシステム生活協同組合連合会主催「在留外国人との地域共生を考える」で講演



▲24年11月：
めぐろボランティア講座で地域で多文化共生につながる活動をしている団体として紹介



▲25年2月：
activo開催のオンラインイベントで活動紹介

● OFP事業

申込者(累計) 1,530 名
新規申込者 335 名/年
説明会開催 57 回/年

● 難民・避難民生活支援事業

支援した難民・避難民数
8 名 (うち子ども 4 名)

● 情報提供・相談窓口事業

支援した外国人夫婦 40 名
生活相談件数 50 件

● 地域多文化共生協働事業

実施した協働イベント
4 件

活動



社会的成果

外国人住民と日本人がリアルにつながる場を作ることで、お互いに接し方を学び、理解を深めることができました。活動を通して、地道に、着実に多文化共生社会に向けた社会の変化をもたらしていきます。



ペア完走率
97 %

年間活動ペア数
117 ペア

参加者満足度
84 %



◀▼ OFPペアの活動



▲外国人妊婦向け「出産・産後」ワークショップ



▲地域多文化共生協働イベント

おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム(OFP事業)

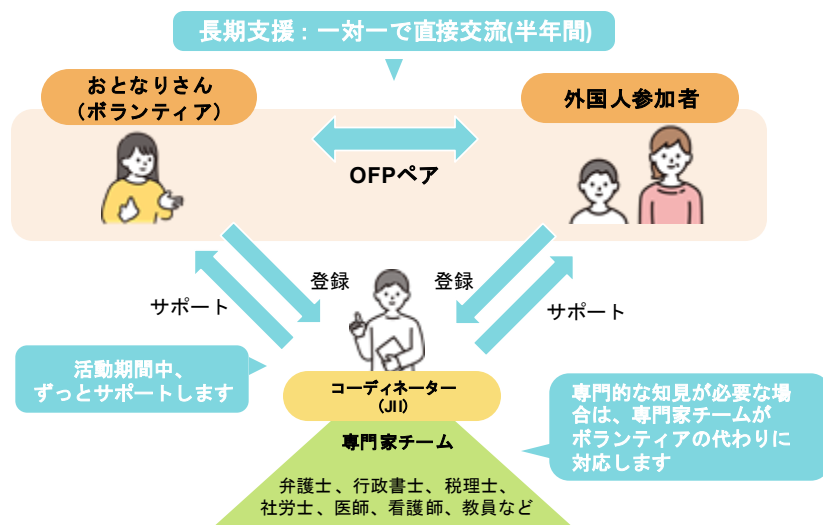
おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム（OFP）は、日本での生活に慣れていない外国人への継続的なサポート活動です。地域に住む日本人ボランティア（おとなりさん）が外国人住民と1対1でペアを組み、交流や生活サポートを通じて信頼関係を築く、日本初※の取り組みです。日本での生活経験が浅い外国人住民が、ボランティアを介して日常的な日本語での会話や日本文化に慣れることで、言語力や生活力を自然と身につけ、自信を持って自立した生活へとつなげます。（※当団体調べ）

対象者： 東京都23区＋近郊エリアに暮らす外国人住民(来日約8年以内。それ以上の方も相談可)

活動例： 日本語練習、生活習慣・文化に関する相談、共通の趣味を楽しむ、お茶をしながらお喋りする など

サポート体制： 本人確認・ヒアリングを徹底し、マッチング後も継続的にフォロー

実績： 高い満足度と継続参加率を維持

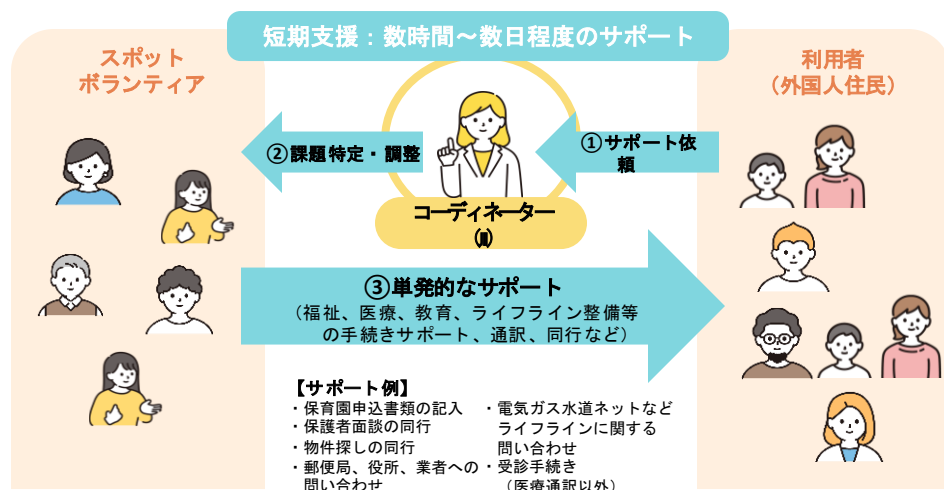


スポットおとなりさん(OFP事業)

スポットおとなりさん（One-time-support ヘルプデスク）は、日本で暮らす外国人向けに、生活に欠かせないことに対して短期で単発的なサポートを行う、ボランティアによる生活サポート活動です。ボランティアにとっては外国人が日常生活の中で感じる不便、困難、不安を解消するだけではなく、外国人住民と直接関わることによって相互理解を深める機会にもなります。

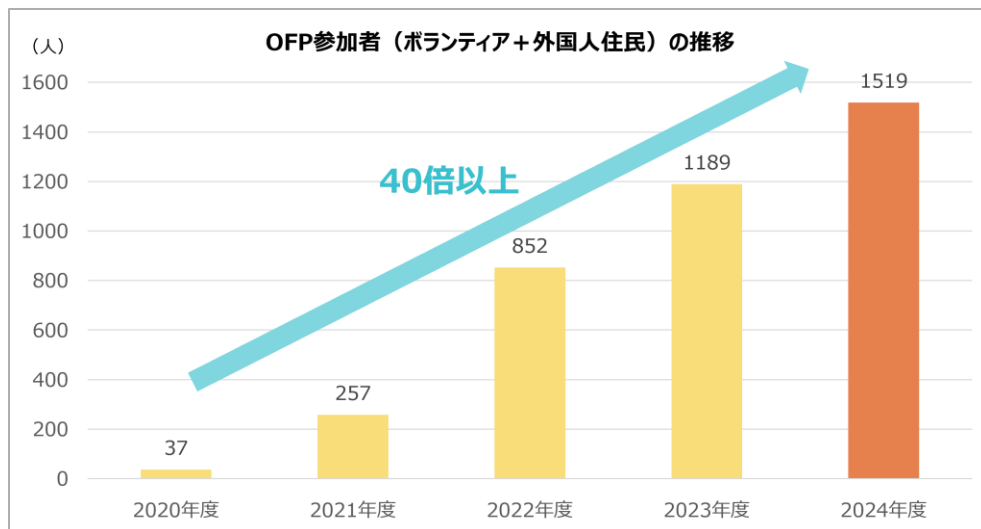
対象者： 東京都23区＋近郊エリアに暮らす外国人住民

サポート内容： 福祉/医療/教育/ライフラインに関わる生活に欠かせない分野の課題に対して、特に手続きや言語面でのサポートを提供



こんな時に利用できます

- 役所や銀行などで生活に必要な手続きを行う際の言語サポート
- 日本語での各種申請書類の作成補助
- 病院受診や手続き等の同行
- 学校や幼稚園、保育園などで受けた説明内容を正確に理解するサポート



2024年度新規申込

335名

外国人参加者 136名
ボランティア 199名

累計申込者

1,530名

外国人参加者 601名
ボランティア 923名
(2025年3月まで)

参加者の
国・地域

50ヶ国
以上

年間活動
ペア数

117
ペア

■ 外国人参加者のニーズ

- 日本語が不自由で、情報収集や日常生活に不安がある
- 日本の文化・習慣を知りたい、相談できる相手がほしい
- 妊娠・出産・育児に関する情報を知りたい
- 日本人とのつながりや信頼できる関係を築きたい
- 職場や日常での適切な振る舞いや実用的な日本語を身につけたい

■ 参加者の属性

- 子育て中の家族 43%
- 子どもがいない会社員 30%
- 留学生 13%
- 独立職業 10%
- 難民・避難民 4%

年齢が近く、
お互いにのんびり過
ごしたい部分が似て
いて嬉しかった
(イタリア、30代)

夫婦同士でお出か
けしたり「今度家
に招待するね」
と言われる仲にな
れた
(フランス、30代)



日本語の練習だけ
でなく、私の英語
の練習に付き合っ
てくれた。感謝!
(主婦)

価値観や行動力
に刺激を受けて
充実した半年間
だった(主婦)

ペアの方がとても良い人で、
お互い忙しい中でも
無理なく交流を続けられた
(米国、30代)

月に一度楽しく交流、期間終了
後は友人として付き合うよう
になった(日本語教師)



良い友人が
できた
(中国、30代)

VOICE
from 参加者

ペアの方の学業が
成就したことが
嬉しかった
(ITエンジニア)



ペアの方に
出会えて良かった
(中国、30代)

子どもを交えて
楽しい交流ができた
(ドイツ、30代)

ペアの方が頑張って日本語を勉強して
深い話ができるようになったことが
嬉しかった(フリーランス)



おとなりさん
体験談公開中!

日本の文化と一緒に
触れ、人生の深い話を
したり、美味しいご飯
を食べに行く中で、
6か月とは思えないほど
絆が深まった
(ベトナム、20代)



情報提供・相談窓口事業

■ 外国人妊婦向け「出産・産後」ワークショップ(英語開催)

2024年7月、昨年度に続き聖路加国際大学の五十嵐ゆかり教授を講師に迎え、外国人妊婦向け「出産・産後」ワークショップを開催しました。出産や病院との関わりに加え、今年度は赤ちゃんの入浴ケアも新たに紹介し、好評を得ました。参加者からは「不安が安心に変わった」といった声も寄せられ、出産準備に役立つ機会となりました。自治体の保健師も見学に訪れました。

参加人数(パートナー含)

40名

2024年度は昨年よりも多くの方にご参加いただき、とても活気あるワークショップとなりました。インタラクティブな交流により、特に皆さんが日本の医療現場で疑問に感じている事柄を知ることができましたし、またそれらの疑問を共有して解消の支援ができたことも良い機会であったと感じています。また、参加された皆さん同士で情報交換をしてネットワークを広げることができたり、さらにJIIとつながることができたことは、これから育児をしていく上でとても役立つことでしょう。

今後は、妊娠から育児期までの継続的な支援ができたらと思っています。今後どうぞよろしくお願いいたします！



聖路加国際大学大学院
看護学研究科
五十嵐ゆかり 教授



■ 暮らしの相談（生活相談窓口）

JIIの専門家チーム（弁護士、行政書士、税理士、社労士、医師、助産師、看護師、教員、キャリアコンサルタント等）と協力し、外国人住民が日本で暮らして直面する悩みについての相談窓口を設けています。OFP会員だけではなく、すべての外国人住民が無料で相談することができます。

24年度相談件数
50件

就職/子どもの預け先/発達障害/在留資格や在留期限/別居/
退学/奨学金/相続/LGBTQなどの幅広い分野

情報提供・相談窓口事業

■ はなまるクラス（外国にルーツがある子ども向け学習支援）



2024年10月にスタートした、小学校入学前～低学年の子どもを対象とした学習支援クラスです。目黒区内で月2回（隔週土曜）に開催しています。

外国にルーツを持つ子どもたちが日本の学校生活にスムーズに適応できるよう、小学校入学前から学習の基礎を身につけることを目的としています。インターナショナルスクール在籍児も対象とし、日本語に親しみながら個々のペースで学べる環境を提供しています。クラフトや長期休みの宿題サポート、保護者向け日本語会話練習など、参加家庭のニーズに合わせた内容を実施。

日本人ボランティアが一人ひとりに寄り添いながら支援を行っています。

外国人家庭**7**世帯
子ども**12**人が参加



■ 日本語トークカフェ

日常生活の場面でよく使う日本語をテーマとして取り上げ、オンラインで日本人ボランティアと会話する機会を提供しました（9月まで毎週水曜・木曜定期開催）。病院で症状を伝える日本語、美容院でのオーダー方法、レストランでの注文などをテーマに、実践的な日本語会話練習を行い、計30名の外国人が参加しました。



■ 外国人社員向け「生活オリエンテーション」研修

外国人社員向けに、日本での生活に必要な情報を伝える研修を実施しています。

2024年度は大手企業の外国人駐在員に向けて、生活基礎情報のインプットセッションと、雪国での暮らし方に関するフォローセッションを実施。講師は海外経験豊富な日本人ボランティアが担当しました。実用的な内容は毎年好評で、ご家族向けのカスタマイズも可能です。

■ コミュニティ活動

昨年度発足した参加者主体のコミュニティ活動は、ペアの枠を越えてOFP参加者同士がつながりを深める機会となっています。

ボランティアが自由に参加する「おしゃべり会」をオンラインで定期的に行いました。趣味を軸に活動する「食べ歩きサークル」では、料理や街歩きを通して多文化に触れながら会話を楽しみます。

こういった活動によって参加者同士のつながりが深まり、新たな活動を生み出すなど、OFPコミュニティ全体の活力が高まっています。



難民・避難民生活支援事業

日本社会の住民として「生活」していく上でのサポートを行う

難民・避難民が日本で自立した生活を送れるよう、中長期的な生活支援を行っています。2023年度から継続支援している家族には、OFPに登録している日本人ボランティアがチームを組み、日常生活を直接サポート。思いやりと多様なスキルを活かした、新しい形の支援を実践しています。

支援内容

定期的な見守り、日本語学習、在留資格の変更、支援申請手続き、就職・転職相談、子どもの通院、病院同行、医療機関の情報提供、保育園入園申請補助、学校とのコミュニケーション、地域とのつながり など

支援した難民・避難民数

8人（うち子ども4人）

ウクライナ・アフガニスタン

■ ウクライナ避難民支援

2022年に来日し、JIIの支援を受けながら生活基盤を築いてきたウクライナ出身の女性が、日本で音楽活動を再開し、2024年12月にステージで歌唱を披露しました。彼女はウクライナで音楽大学を卒業後、音楽教師や公立



合唱団で活躍していました。2人の子育てをしながら日本語を学び、地域の合唱団とのつながりを通じて徐々に生活に適応。JIIは入国・住環境整備・教育・医療・日本語学習など多方面で支援を行い、音楽活動の再開も後押ししました。

地域多文化共生協働事業

■ 協働イベント

世界のお菓子探検隊！～お菓子食べ比べ&クイズラリー～

2024年10月、東京都目黒区の下目黒五丁目自治会・目黒原町会と協力し、多文化交流イベントを開催しました。参加した子どもたちを探検家に見立て、各国のブースを巡りクイズに挑戦しながら世界のお菓子を楽しみ、多文化への理解を深めました。



アメリカ、中国、ドイツ、ネパール、ウクライナ、セネガル、インドネシアの7カ国が出展。各国出身者とおとなりさんボランティアが運営し、文化や習慣を紹介しました。参加者は50名超の子どもたちとその保護者。クイズ大会やウクライナの歌の披露も行われ、参加者からは「楽しく学べた」「印象的な体験だった」と好評の声が多数寄せられました。今後も共生社会の理解につながる地域での取り組みを続けていきます。



地域多文化共生協働事業

UBS社員と囲碁で楽しもう

2024年8月にUBSグループ社員とJIIのOFP会員が囲碁を楽しみながら交流を深めるイベントを開催しました。日本棋院の院生で、医師でもある飯塚先生をお招きし、初心者でも分かりやすいように丁寧に囲碁の基本ルールを指導していただきました。参加者は大人から子どもまで、多くは外国出身の方でした。

囲碁の力を借りながら言語や年齢の壁を乗り越えて共に楽しむことで、楽しい関係から自然と生まれるものだと感じた参加者も多かったものと思います。



東京芸術劇場&JII協働イベント 演劇ワークショップ

東京芸術劇場とJIIとの協働により、2024年11月「シアター・コーディネーター養成講座」および2025年2月「異文化間の対話から演劇を立ち上げるための創作トレーニング・プログラム」の一環として、外国人住民向けワークショップが開催されました。ワークショップでは、半年間にわたり演劇を学んだアーティストやコーディネーターたちが中心となり、外国人住民とともに表現活動を展開します。

参加者は、日本に暮らす外国人として日頃感じていることや思い・経験などを普段身近で触れることのない“演劇”という形で表現し、演劇に取り入れるためのアイデアを共有しながらアーティストとともにクリエイションに取り組みました。プログラムを通して、文化や言葉の壁を越えた対話の場を提供し、多文化共生社会の実現に向けた新たな交流の機会を創出しました。



川へのご支援、ありがとうございます！

助成

赤い羽根 東京 共同募金会



居場所を失った人への
緊急活動応援助成



新型コロナウイルス感染下における
外国にルーツがある人々への支援活動応援助成

令和6年度東京都在住外国人支援事業助成



東京都



Google Ad Grants



※システム提供を受けております

協賛

BELTA

協働団体

<教育機関>

- ・聖路加国際大学
- ・政策研究大学院大学

<企業>

- ・社会福祉法人徳心会（こぶし園）
- ・株式会社システートソリューションズ（多言語翻訳）
- ・株式会社activo
- ・株式会社PR TIMES
- ・UBSグループ

<NPO・団体>

- ・特定非営利活動法人 Mother's Tree Japan
- ・特定非営利活動法人 群馬の医療と言語・文化を考える会
- ・一般財団法人 パスウェイズ・ジャパン
- ・一般社団法人JP-MIRAI 責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム
- ・アフガニスタン退避者受け入れコンソーシアム
Actions for Afghans (AFA)
- ・特定非営利活動法人 国際活動市民中心(CINGA)
- ・公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場
- ・NPO法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京
- ・下目黒五丁目自治会／原町会／祐天寺町会

など

取材・メディア掲載



Spaceship Earth

SDGsポータルサイト

<https://spaceshipearth.jp/japan-intercultural-intelligence/>

スタディチェーンpicks

教育・キャリアに関心のある方々にノウハウや情報を発信するウェブメディア

<https://studychain.jp/picks/npo/>



福祉をたずねるクリエイティブマガジン

<https://co-coco.jp/news/sofp/>

公益財団法人笹川平和財団

2024 年度「新人流時代の共生社会モデル構築」事業
国際移住者受け入れハンドブックおよび提言書作成のためのヒアリング協力

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

『区民等の理解と信頼を深めるための情報発信のあり方』
に関する調査研究(公益財団法人特別区長会調査研究機構
が実施)に取材協力

2024年度 活動計算書

2024年4月1日 ～ 2025年3月31日まで

単位：円

① 経常収益	科目	金額	
① 経常収益	受取会費	50,000	
	受取寄付金	2,103,700	
	受取助成金等	6,986,472	
	事業収益	1,129,400	
	その他収益	686	
	経常収益 計		10,270,258
② 経常費用	【事業費】 人件費 計		7,682,233
	その他経費 諸 謝 金	88,138	
	印刷製本費(事業)	251,863	
	通信運搬費(事業)	279,384	
	広告宣伝費	534,572	
	その他経費計	506,517	1,660,474
	事業費 計		9,342,707
	管理費 計		595,068
	経常費用 計		9,937,775
	当期経常増減額		332,483
	前期繰越正味財産額		2,921,755
	次期繰越正味財産額		3,254,238

2024年度 貸借対照表

2025年3月31日 現在

単位：円

《資産の部》		
流動資産合計		4,760,396
固定資産合計		44,908
資産合計		4,805,304
《負債の部》		
【流動負債】未 払 金	517,152	
短期借入金	1,000,000	
預 り 金	33,914	
負債合計		1,551,066
《正味財産の部》		
前期繰越正味財産	2,921,755	
当期正味財産増減額	332,483	
正味財産合計		3,254,238
負債及び正味財産合計		4,805,304

川チームからのメッセージ

事務局 スタッフ



楊 森

理事・事務局長

ご支援と実際に参加して活動を広めてくださった皆様のおかげで4年間活動を継続することができました。世界で高まる移民をめぐる対立を越え、相互理解こそが真の平和を生むと信じ、互いにより隣人でありたいというビジョンを胸に、活動を続けてまいります。



小林 優里

チーフコーディネーター

外国人がより身近な存在に感じるようになってきた方も多いと思います。多様な人々がお互いに尊重し合いながら暮らせる社会を目指して、これからも活動を進めていきたいと思っています。今度共どうぞご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



Aryal Shivakoti Raksha

コーディネーター

スタッフ、そして外国人住民の一人として、JIIの活動で日本人と外国人の交流が深まり、相互理解と尊重が育まれるのを見てきた経験から、明るい日本の未来をつくる取り組みの重要性を強く感じています。活動を支えてくださる皆様に感謝し、共に意義ある変化を目指しましょう。



清水 歩

コーディネーター

JIIへのご支援に心より感謝申し上げます。異なることを受け入れあう社会の形について、同じ課題意識を持つ皆様とともに考え続けながら、活動へのさらなる理解と賛同を得られるよう取り組んで参ります。



藤田 桂子

コーディネーター

お互いを尊重し支え合う多文化共生の未来が、外国人住民だけではなく私たち日本人にとっても住みやすい社会になると信じております。今後は自治体と連携しJIIの活動をさらに広げて行くことを願っています。



清水 典子

コーディネーター・広報

いつもご支援くださり、深く感謝申し上げます。外国人住民の方と「おとなりさん」が初めて出会う場に立ち合わせていただける度に、とても幸せな気持ちになります。たくさんのご縁が生まれるのは、皆様の支えがあってこそです。本当にありがとうございます。



猪股 早輝子

コーディネーター・広報

JIIが走り続けて来られたのは、皆様の力強いサポートのお陰です。心より感謝いたします。外国人住民の方はもちろん、一人ひとりの違いを尊重し、思いやり溢れる共生社会と一緒に形作っていかれたら幸いです。



Takatoh Susan

広報

JIIへの皆様のご支援に心より感謝申し上げます。皆様のご支援のおかげで、JIIは外国人の方々が日本での生活にスムーズに溶け込むお手伝いをすることができ、これからも頑張っ参りますので、どうぞよろしくお願いいたします！

一緒に川を支えてくださり、ありがとうございます！

運営サポーター ボランティア

OPFの運営には、多くのボランティアが関わっています。なかでも、説明会で参加者の希望や条件を丁寧に聞き取る「ヒアリングサポーター」は欠かせない存在です。今年度は10名の方にご協力いただきました。

心より感謝申し上げます。

私は、2023年春にOPFに登録しました。登録のきっかけは、自分の時間を何人の役に立つことに使いたいという思いからでした。さらに自分のできる事は何でも挑戦してみようと、登録の際の個別ヒアリングのサポーターもさせていただくことになり、新たに登録を希望する沢山の方と出会うことが出来ました。国も立場も違う人達がOPFを通して出会い、親睦を深めるというとても大切で奥の深い事業に自分も微力ながら携われることに、やりがいを感じています。

これからも、細く長くですが、皆さんとこのプロジェクトの発展と成功を願い続けたいと思っています。



中村 佐代子さん
運営サポーター歴2年

プロボノ ボランティア

プロボノとは、専門スキルを活かして行う社会貢献活動です。JIIでは、法務・会計・広報・ITなど多分野のプロボノの皆様が活動を支えてくださっています。お忙しい中でのご協力に、心より感謝申し上げます。

辻川 昌徳さん
法務支援



法務のプロボノとして、契約書チェックや法的なご相談などで、JIIに関わらせて頂いています。私自身、過去に海外2か国で生活したことがあり、それぞれの国で生活面で親身に助けてくれた人がいました。その人たちのおかげで海外生活が素晴らしい経験となり、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。JIIのみなさんの素敵な活動により、おとなりさんは素晴らしい経験をされていると思います。私も素晴らしい活動に関わることができてとても嬉しいです。

山下 恵史さん
ファンドレイジング支援



私は、2023年からSVP東京という社会課題解決を支援する投資・協働型コミュニティの一員として、5人の仲間とともにJIIの活動を支援・伴走しています。そして、その活動の核となる「善き社会をともに作る一歩」として、無名の人に光をあてる「おとなりさんプログラム」に心から共感しています。今、一人のおとなりさんとして、日々の生活に溶け込む自然な活動の中でその価値を実感しています。共に学び、支えあう未来を応援しています。

プロボノ募集中！一緒に多文化共生を目指しませんか？

ご自身の専門知識を生かし、JIIの活動を支えてくださる方を募集しています！
詳しくは右のQRコードからご確認ください。



川の歩み

東京都外国人支援助成事業



即興劇による意識啓発公演



専門家による多言語子育て相談会

OFPを日本で初めて立ち上げ



これまでの活動経験やヒントを活かし、日本で初めて市民主体の外国人住民受け入れの仕組みを考案しました。
半年間のパイロット運営を経て、2020年に一般募集を開始しました。

2010

活動前期

・法人設立
訪日外国人と日本人の直接的な交流を促進する

2017～2018

再スタート
模索期

・外国人住民の課題を解決できる効果的なアプローチを模索
・定款変更
対象を「日本に暮らす外国人」に変更し、再スタート

2019～2021

新しいモデルを創出
仕組みづくり・仮説検証

・コロナ禍の中、活動を継続、オンライン運営にシフト
・「若者力大賞」受賞
・OFPを一般公開
・OFPモデルを構想し、事業化

2022～2024

成長期
効果検証・活動が多様化

・参加者が前年度の倍に増加
・ウクライナ避難民支援を開始
・「かめのり大賞」受賞
・申込者1500人超

OFP申込者

37人

852人

1,519人

スタッフ

2人

3人

5人

8人

運営ボランティア・プロボノ

3人

20人
8人

80人
12人

2025年度の川 ～ これからの目標 ～

1

行政、企業、他団体との連携強化

活動参加者の受け入れ規模を拡大し、より多くの方に参加機会を提供します

2

財政基盤の強化

事業が円滑に継続できるよう、助成金に頼る現状を改善し、安定した財政基盤を築きます

3

活動成果の検証、対外発信の強化

専門機関と協力し、OFPの効果を科学的に検証する。社会に対して広く発信し、理解を促進します

4

OFPのアップデート及び支援の充実化

さらに多くの参加者を受け入れられるよう、運営体制を強化します
多様なニーズに応えられるよう、支援内容のさらなる充実を図ります

ご支援のお願い

私たちは「一時的な支援」ととどまらず、互いを認め合い、対等に助け合う関係づくりこそが、国籍や文化にとられない社会につながると信じています。そんな社会を一緒に目指しませんか。ご寄付・ご入会いただいた方には、活動報告やメールマガジンをお届けします。会費・寄付金は、外国人住民や難民・避難民の支援活動に活用させていただきます。あたたかいご支援を、ぜひお願いいたします。

寄付キャンペーンのご報告

「OFP新事業立ち上げのための応援寄付キャンペーン」を2024年12月に実施し多くの皆様から温かいご支援をいただきました。

●合計金額: 1,089,742円 (寄付者数: 54名)

皆様からの貴重なご支援により、2025年2月にスポットおとなりさんのパイロット運営を開始しました。心より感謝申し上げます。



「JIIパートナーズ」になってJIIの活動を支えませんか？

マンスリーサポーターを募集しています！

毎月の定額寄付でご支援いただけます。
金額は自由に設定していただけます。
法人の方も大歓迎です。

▼ お申込はこちら
<https://j-ii.org/support/>



正会員

定期的な活動報告と、総会での議決権があります。

個人：5,000円/年 団体：20,000円/年

▼ お申込はこちら
<https://forms.gle/HtmeXB1YJMMuC4weA>



都度のご寄付

お好きな時に、お好きな金額でご支援いただけます。

▼ お申込はこちら
<https://j-ii.org/support/>



企業寄付 「benevity」世界的なCSRプラットフォームサイト

お勤め先がbenevityを利用されている方は、benevity ID (392-5742229403136_56c5)もしくは「Japan Intercultural Intelligence」で検索して寄付いただけます。

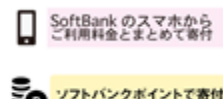


寄付金控除

寄付サイト「Give One」



SoftBank「つながる募金」



JIIの口座に直接ご寄付くださる場合

銀行名	住信 SBI ネット銀行（金融機関コード 0038）
支店名	法人第一支店（支店コード 106）
口座種類	普通
口座番号	1418300
名義人	漢字 特定非営利活動法人アジア人文文化交流促進協会 カナ トクヒ アジアジンブンブンカコウリユウソクシンキョウカイ

ご連絡はこちらまで



info@j-ii.org



03-6452-3760

外国人住民と共に生きよう

JIIが見ている未来は 外国人を含めた多様性が活かされる社会です。

人々がそれぞれの文化の良さを保ちながら、様々な文化の持つ素晴らしさを楽しむことができる。

互いにとって暮らしやすい「良き隣人」として、ともに生きる。

そして、素晴らしい文化同士の出会いによって「新たな公共文化や価値を創造することができる」という文化共生社会を目指しています。

「外国人住民が日本社会になじみやすくする」ことが私たちのミッションです。
これからも応援、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします！

マンスリー
サポーター
募集中！

今回だけのご寄付も
大歓迎です

毎月のご寄付



今回だけのご寄付



【発行元・お問い合わせ】

特定非営利活動法人 アジア人文文化交流促進協会

NPO Japan Intercultural Intelligence (JII)

〒153-0064 東京都目黒区下目黒5-27-5

03-6452-3760

info@j-ii.org

<https://www.j-ii.org>



[npo_jii_tokyo](https://www.instagram.com/npo_jii_tokyo)



[JII.Tokyo](https://www.facebook.com/JII.Tokyo)

